

試作品を製作・提案

東研 サーマーモ 量産まで一貫受注

次世代コーティング加工

東研サーモテック（大阪府寝屋川市、川崎隆司社長）は、自動車メーカーや大手部品メーカーの研究開発部門や生産技術部門に、5～10年先の採用を見据えた次世代コーティング加工技術の提案を始めた。社内で3月に新設した「先行研究開発室」が中心となつて、顧客メーカーの技術ニーズを聞いて、試作品を製作・提案する。熱処理加工の量産メーカーの立場を生かし、試作から一貫して受注する体制を訴求する。

東研サーモは自動車向け部品の熱処理加工が主力。2021年3月期の国内売上高約1

約2割にとどまる。新設した先行研究開発室は室長にコーティングの技術開発に携わる30代の若手社員を抜



DLCなどコーティング加工のサンプル

1から先行研究テーマを聞きとって自社に持ち帰り、試作品を作つて提案する。当面は顧客の技術ニーズに対して既存技術を深掘りして提案し、フッ素など従来取り扱ってこなかった材料にも徐々に加工の幅を広げる。31年3月期にはコーティング加工の国内売上高を現在の約2倍となる60億円規模に伸ばしたいと考えた。

コーティング加工は部品の強度不足などが判明した際に後付けで設計に加えることが多い。コスト増の要因になりやすい。設計時に採用しておけば、後付けコストが増えず、部品の性能向上や材料費の削減、部品の小型化などにつながる可能性がある。